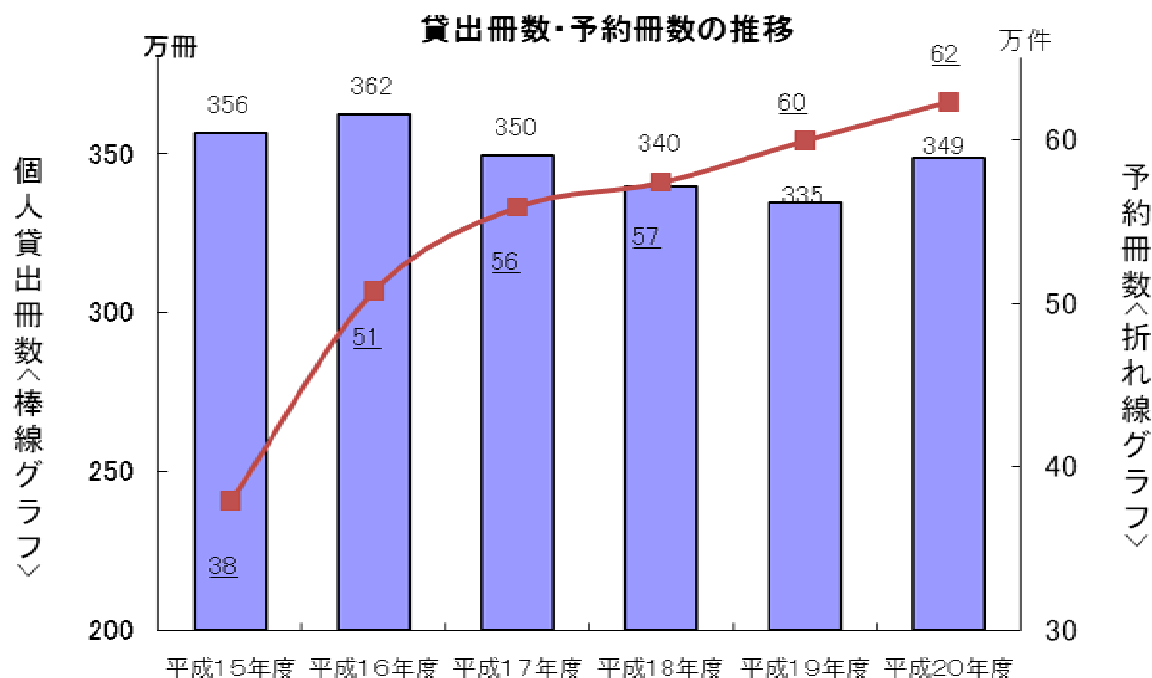


(2) 図書館の設置目的・使命の達成状況について

個人貸出サービス

豊中市在住・在勤・在学・在園の方を対象に利用者カードを発行し貸出を行っている。利用者カードの有効期限は5年間で、各館オンラインで結ばれているため全館共通で利用できる。資料の貸出は1人10点まで、(ただし映画ビデオ1本、CD2枚まで)貸出期間は2週間である。なお、千里図書館、蛍池図書館では箕面市と広域利用(試行)の協定を結び、箕面市民は5点貸出を受けることができる。

平成20年度個人貸出総冊数は3,487,141冊、平成19年度の貸出総冊数3,347,745冊に比べ、139,396冊(対前年比4.2%増)である。増加冊数は千里図書館196,962冊(対前年比42.8%増)と多く、岡町図書館2,658冊(対前年比4%増)、野畑図書館1,067冊(対前年比2%増)、服部図書館1,013冊(対前年比3%増)はそれぞれ微増である。平成19年度は千里図書館がリニューアル休館したため、平成18年度に比べ貸出冊数が減少していたが、平成20年度は平成18年度に比べ、千里図書館においては156,566冊(31.3%増)となった。貸出冊数増の外的要因としては、千里図書館は市民交通の便に恵まれ、買い物ついでに立ち寄れる利便性に加え、床面積も広くなり、資料の所蔵冊数も増えたことが考えられる。一方、貸出冊数が減少した上記以外の館は、平成21年2月16日から3月2日までコンピュータシステムの入替えによる休館期間が大きく影響したものと考えられる。



貸出人数・貸出冊数の数字だけで比較すると、北部地域の利用が多く、南部地域の利用が少なくみられるが、人口比率でみると、豊中市民の人口比率は北部62%、南部は38%であり、貸出冊数比率では北部64%、南部36%であり大きく差があるということはない。しかし、利倉西、上津島、大島町など人口と比べて利用が少ない地域は、既存の図書館から遠くに位置していることも要因と思われる。平成20年12月に豊島西小学校に毎週日曜日開室のバス図書室を設けた。少しでも利便性の向上を図り動向をみていきたい。

<貸出室・一般図書コーナー>

リニューアルした千里図書館では一般図書コーナーの個人貸出冊数が、128,935冊（対前年比40.9%増）と大きく増加している。成人書の全貸出冊数は、2,157,456冊で85,944冊（対前年比4.1%増）となっている。岡町図書館3,297冊、服部図書館190冊と微増しているが、他館は減少傾向である。利用の多い館にリクエスト本が集中し新刊書等に偏りが生じやすいことから、新システムでは、リクエスト本の所在館に予約引当ての順位を与え、小規模館や分館からの流出をなるべく防ぐよう工夫している。図書購入費が潤沢でない現状では、利用の多い館だけに資料が留まらないよう配慮していくことも必要と考えている。また、利用者アンケート調査に見られるよう、サービス対象に限られる「ビジネス支援サービス」など認知度の低いサービスは、対象を絞ったPRが不可欠と考えられる。

<こども室・児童書コーナー>

児童図書の個人貸出冊数では912,580冊（対前年比5.9%増）である。増加貸出冊数は千里図書館46,663冊（対前年比52.7%増）平成18年度と比較すると42,273冊（45.5%増）である。岡町図書館4,961冊（対前年比2.7%増）、服部図書館1,169冊（対前年比1%増）、野畑図書館3,785冊（対前年比2%増）である。図書の購入冊数は一般書26,156冊、児童書15,831冊で児童書の割合は37.7%であり、比較的児童書は充足していると思われる。年齢別の貸出冊数では30代が最も多いが、この世代は一般的に子育て世代であり、またその貸出ベストが絵本であるという状況は特徴的な傾向といえる。また貸出冊数ばかりでなく貸出人数も最も多いのが30代である。貸出人数は一般と比べ14歳以下の人数は全体の17.5%であるが、豊中市の人口比が14%であることから利用は多いともいえる。『子ども読書活動推進計画』に沿った関連事業・諸行事の実施が児童書の冊数を伸ばしている。こども室の担当者は4か月児の健診での『えほんはじめまして』の実施や、子育てサロン・サークルなどへの出前講座も行っている。これらの定着が乳幼児を持つ保護者が本や図書館に親しむきっかけとなっていることも影響していると考えられる。

団体貸出サービス

子ども文庫や学校、放課後こどもクラブ、保育所（園）、幼稚園及び自主的な活動グループで10人以上の利用者を有する団体に資料の団体貸出を行なっている。貸出の期間や冊数は利用団体の種別ごとに定められており、図書館では選書の補助や、必要に応じて配本などを実施している。

<子ども文庫への団体貸出>

平成21年4月現在、13ヶ所の子ども文庫があり（うち豊中子ども文庫連絡会「以下豊子連」加入は10ヶ所）それぞれの地域で子どもに本を手渡し、子どもの育ちを見守る活動を長年にわたって行っている。この子ども文庫に対して、長期の団体貸出や必要なテーマの資料を提供するとともに、必要に応じて配本を実施している。

<学校図書館>

学校図書館は平成5年度（1993年度）から、学校図書館司書の配置が始まった。

平成12年度までは、主に岡町図書館・団体貸出室がサービスを実施していたが、平成13年度からは各地域館で59校を分担し、団体貸出を行なっている。

また、平成13年の5月から義務教育課の資料運搬システムにより週1回の学校への物流便が始まり、11月にはインターネットによる蔵書検索・予約サービスを開始した。

平成15年度からは学校司書の配置3年未満の学校図書館に対して200冊を上限に読みものなどの長期貸出を実施してきた。（平成20年度で終了）

平成17年4月には小・中学校59校に学校司書が全校配置された。このため、インターネットによる予約や貸出が増えて、平成17年度の貸出冊数は51,484冊（対前年比25.6%増）となった。近年はやや減少傾向で推移しており、平成20年度は41,355冊（対前年比12.4%減）となった。減少の要因としては、学校間同士の貸借が活発になったことや図書館システムリプレイスによる休館が考えられる。

<その他>

放課後こどもクラブの平成20年度の貸出冊数は14,522冊（対前年比22.8%増）、おはなしボランティアグループは9,921冊（対前年比8.7%減）と減少した。放課後こどもクラブの配本実施校は前年度から3校増えて39校となり、学期ごとの配本を行っている。今後も全校実施に向けて周知を進めていきたい。平成20年度の保育所（園）の貸出冊数は23,408冊（対前年比3.7%減）、幼稚園は2,002冊（対前年比6.2%減）となっている。

動く図書館による巡回サービス

<一般ステーション>

図書館から遠く離れた地域の市民に、“動く図書館”1台が市内を巡回して、資料の貸出を行っている。動く図書館の駐車場所をステーションと呼び、平成21年度現在18ヶ所を約4週間に1回巡回している。貸出冊数は1人20冊まで、貸出期間は次の巡回日まで約4週間としている。

<施設ステーション>

図書館への来館が困難な子どもたちの通う施設に、“動く図書館”が巡回し、資料の貸出を行っている。平成21年4月現在、市立保育所3ヶ所、民間保育園2ヶ所、支援学校2ヶ所・障害児通園施設2ヶ所へ約4週間に1回巡回している。

平成20年度、動く図書館の年間貸出人数は8,228人（前年比7.7%減）、年間貸出冊数は69,746冊（前年比12.9%減）で、減少した。これは動く図書館車「とよ1号車」の更新、及び図書館コンピュータシステムのリプレイスと資料点検に伴う休止期間があったためである。ディーゼルエンジンの排気ガス規制による使用期限が切れた平成20年8月から、新車が完成した10月までの3ヶ月間、一般ステーションについては代替車「とよ3号」での縮小した巡回とし、予約本の貸出などを中心にサービスを行った。また、施設ステーションについては休止した。

今年度は、新しい「とよ1号車」のPRを兼ねて、新車の愛称募集を行った。巡回を休止した8月から広報やホームページなどで募集を開始し、市民のほか、動く図書館で巡回している施設の子供達に呼びかけた。その結果200件を超える応募があり、10月に愛称応募作品選考委員会を開催し、応募作品の中から「ぶっくる」に決定した。その後、11月には、新しい動く図書館をより知っていただくためのお披露目会「はじめまして、とよ1ぶっくるです」を地域子ども教室カーニバルに合わせて、豊中市役所で実施した。

また、保育所3ヶ所では、卒園するクラスを対象に、今年度末もおはなし会を実施した。さらに、支援学校・障害児通園施設では、「おはなし会がやってきた」による出前おはなし会も行なった。

図書室

いぶき図書室には約 6000 冊の資料があり、週 2 回、水曜日と土曜日の午後 1 時から 5 時まで開室している。また、第 1・第 2 水曜日にボランティアの協力を得ておはなし会を行っている。いぶき図書室の一日あたりの平成 20 年度貸出冊数・人数は前年度より 10% 程度増加している。

箕面市との広域利用サービス実施に伴い、近隣に箕面市立西南図書館があるしばはら図書室は利用に減少傾向がみられ、平成 20 年 7 月に閉室することとなった。一方、平成 20 年 12 月、近隣に固定施設のない利倉西地域において、新たに豊島西小学校内にバス図書室を開室した。これは車両更新にともない廃車となった動く図書館旧「とよ 1 号」を、図書館未整備地域の小学校校内に設置し、図書室として活用するものである。車内に約 2000 冊の資料を備え、週 1 回、日曜日の午後 2 時から 4 時まで開室している。

レファレンスサービス

調査・研究・読書相談・日常における疑問などについて、資料、情報の提供や関連機関の紹介をおこなう業務がレファレンスサービスであるが、利用者から探している本の所在をたずねられたときに書架を案内することも広義のレファレンスである。

利用者からの働きかけに応じて適切な資料を探し出し、提供する作業について、豊中市立図書館では平成 19 年度より参考室(参考図書コーナー)だけではなく、貸出室カウンターにおいても詳しく統計を取っている。書架・書庫からの出納件数、施設案内なども利用者からの問い合わせ項目として設け、カウントしているが、総数において 40,155 件から 37,941 件へと昨年に比べ、2,214 件の減少傾向がみられた。原因として昨年のリブレイス休館期間が 11 日間あったのでその影響も考えられる。また項目では資料案内が 1,375 件と減少している。これは利用者が事前に図書館ホームページで検索してから来館、またはリクエストをおこなうなどの事例が増加して、資料について対面や電話で検索して案内をする件数が減少しているからではないかと考えられる。さらなるレファレンス業務の PR 強化を図りたい。

平成 20 年 3 月以降の図書館業務用システムにおいて、レファレンス事例を蓄積し、今後公開することも可能な状況となった。

また、平成 21 年 9 月に豊中市立図書館ホームページからレファレンスを受け付ける「e-レファレンス」サービスを開始する予定である。野畑図書館開館当初より蓄積してきた新聞記事の電子ファイルを活用した「豊中関連新聞記事検索システム」についても、公開準備中である。

リクエストサービス

読みたい本、調べたい本などが見つからない時、1人10点までの範囲でリクエストができる。リクエストサービスを受けるためには、リクエスト票による受付、OPAC（館内利用者用パソコン）、Web（図書館ホームページ）からの3通りの方法がある。

20年度リクエストの総受付件数は623,173件で23,704件（対前年比3.9%増）である。平成15年度のWeb予約が開始されたころの378,686件の1.6倍と毎年増加の一途をたどっている。リプレイス後は、より手軽に図書館のホームページを利用させていただくため、携帯電話からもリクエストができるようになった。貸出冊数の増加している館ではリクエスト数も増加しているが、貸出冊数減少館の庄内幸町図書館はOPACとWeb予約が前年比10.5%増である。小規模館ではリクエストで資料を取り寄せて借りるという利用がされているともいえる。

受付件数から提供件数を差し引いた「取消し」も、ほぼ毎年増加している。20年度は28,090件の取消しがあった。取消し原因には、待ち切れずに取消すケース、取置き期間を過ぎてしまい取消しになるケースがある。理由としては、予約の多い本などの提供に時間がかかりすぎる、クリックひとつで簡単に申込みしたものの、時間がたつと必要を感じなくなってしまうことなどが考えられる。資料費が潤沢でない現状での課題としては、提供までの時間短縮をいかに工夫するか、メールなども利用し資料確保の連絡を迅速にしていけることが必要である。

予約冊数の推移（方法別）

